



丸子中央病院

MARUKO CENTRAL HOSPITAL

病院概要

2023年度版



新型コロナウイルス感染症 私たちの記録

新型コロナウイルス感染症は、医療・介護に携わる私たちにとって大きな変化をもたらしました。感染対策を講じながらの見えない脅威との闘いは、苦労の連続でした。しかし、職種に問わず高い基礎的能力を活かしながら、予測が出来ない事態でも柔軟に対応できる人材が確かに育っていることを実感しています。

- 2020年4月 発熱外来設置 診療・PCR検査・抗原検査を開始
- 2020年9月 全自動遺伝子解析装置を2台導入 院内でPCR検査が出来る環境を整備
- 2021年5月 新型コロナウイルスワクチン接種開始
- 2021年6月 新型コロナウイルス陽性者の受け入れを開始（最大受け入れ人数4名）
- 2022年5月～ 新型コロナウイルスワクチンを約43,000回接種（2023年5月1日現在）

丸子中央病院の理念

本院は、質の高い医療・介護の提供を通じて、地域のしあわせ創りに貢献します。

丸子中央病院の方針

1. 患者さんの権利の尊重と療養環境の充実
2. 医療従事者の育成とチーム医療の推進
3. 健全な病院経営
4. 地域おこしへの貢献

丸子中央病院職員の倫理規定

1. 職員はすべての患者さんに対して常に平等に、温かく接しなければならない。
2. 職員は、患者さんに十分な情報を提供したうえで、患者さんの知る権利、自己決定の権利を尊重しなければならない。
3. 職員は守秘義務を厳守し、個人情報保護に努めなければならない。
4. 職員は、自己研鑽に努め、医学の進歩と発展に貢献し、安全で信頼される医療の提供に努めなければならない。
5. 職員は、医療法人丸山会丸子中央病院職員としての自覚を持ち、お互いを尊重し、協力して病院の健全な運営に努めなければならない。

丸子中央病院患者さんの権利憲章

丸子中央病院は、患者さんの利益を守るためにこの権利憲章を制定します。

本院の職員は、この権利憲章を守り、患者さんの医療への主体的な参加を支援いたします。

1. 患者さんは、人としての尊厳を尊重される権利があります。
2. 患者さんは、平等な医療を受ける権利があります。
3. 患者さんは、納得できるまで説明を受ける権利があります。
4. 患者さんは、診療録の開示を求める権利があります。
5. 患者さんは、自ら受ける医療を選択し、あるいは拒否する権利があります。
6. 患者さんは、担当医以外の医師の考え（セカンドオピニオン）を求める権利があります。
7. 患者さんは、プライバシーを守られる権利があります。

地域に根差した医療・介護の歩みと挑戦



特定医療法人 丸山会
理事長 丸山 和敏

当院は丸山大司が昭和34年に小県郡丸子町上丸子（現上田市上丸子）に丸山医院を開業したことに端を発します。昭和40年に丸子中央病院となり、その後4期の増築工事を経て昭和60年には総合病院の認可を受け330床の「丸子中央総合病院」に名称変更しました。

丸山医院開業から50年が経過し、超高齢化など社会構造の大きな変化によって地域や医療の在り方が大きく変わりました。その変化に対応するために平成25年8月、上田市で丸子に新築移転しました。同時に新病院の名称を「丸子中央病院」に戻し、開業当時の原点に立ち返り地域に根ざした病院を目標に再スタートしました。療養環境も大事な治療と考え廊下と病室はゆとりあるスペースを確保し、大きな窓を配置した病棟の食堂からは浅間山、烏帽子岳を望めます。健診部門は9階に配置し、ホテルのようなゆったりとした空間を目指しました。ドック専用ラウンジでは病院専属の山田康司シェフによる料理を提供し、多くのドック受診者の皆様より好評を頂戴しております。また9階のレストランでは平日に限りますが、一般の方にも山田康司シェフのランチを味わって頂いております。

医療の質を高めるため、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価3rdG:Ver.2.0の認定を受けました。また医療従事者を対象としたAHA（アメリカ心臓協会）公認「BLS/ACLSコース」を定期開催しており、当院職員の90%以上が受講しています。また、一般の方を対象とした心肺蘇生法の普及活動「PUSHプロジェクト」も実施し、地域の救命率向上に取り組んでいます。

令和元年（2019年）に確認された新型コロナウイルス感染症は、翌年から世界的に大流行となりました。日本でも感染者が増え続け、当院は令和2年4月に駐車場スペースを利用し発熱者専用診察室を設置しPCR検査体制を整え、感染者の診療をいち早く開始しました。当初は検査機関に依頼していたため一日以上かかっていたPCR検査結果の判定を、時間短縮する為に同年秋からは院内でPCR検査機器を導入し、感染者の増加に対応しました。また上田市や企業の要請があり新型コロナウイルスワクチン接種を積極的に行い総接種数は約4万回を超え、地域の医療体制を支えてきました。令和5年5月より新型コロナウイルス感染症は五類感染症に分類変更となりましたが、感染力は強いままであるため引き続き当院の感染に対する体制は維持します。

地域貢献として様々な地域のイベントに参加や協力、或いは主催者として開催しておりましたが新型コロナウイルス感染症の影響により多くの活動は休止しております。このような状況下でもオンラインでの市民公開講座やYouTubeを使って医療情報の提供を続けております。また株式会社ツルヤ様と共同で山田康司シェフによる栄養のバランスを考えた、体に優しい美味しいレシピ「いきいきレシピ」をご家庭にお届けしています。

開院から60年以上が経過し、地域に即した医療・介護サービスは勿論、それ以外の分野でも当法人の理念である「地域のしあわせ創り」に全力で取り組んでまいりますので引き続き御支援、御協力をお願い申し上げます。

3年間にわたる新型コロナウイルスの跳梁跋扈下で



特定医療法人 丸山会
丸子中央病院
院長 勝山 努

3年間にわたる新型コロナウイルスの跳梁跋扈のために、当院も異様な緊張感が漂う中での診療を余儀なくされてきました。診療能力、管理・運営能力などが厳しく問われ、病院に勤務するすべての職種にわたって、多少の濃淡はあるにしても、大変なストレスが加わりました。ただ、この期間を通じて、感染症対策を中心に診療能力が高まったことは間違いありません。陰圧室が設置され、感染症検査体制も整備されました。ICTチームの能力は目覚ましく向上して人材が育ち、院内感染対策では長野県の拠点の一つと言える存在になりました。

一方、この3年間に失われたものもあります。最も深刻なのはスタッフ同士の結びつきが希薄になったことでしょうか。言うまでもなく、人と人の結びつきは直接会い、顔を見て、一見無駄に見える「雑談」を重ねることによって強められます。歓迎会のような雑談機会が全く失われて、診療の現場でもついつい厳しい言葉が飛び交い、誤解を招く例が多くなっているのではないかと心配になります。この失われた3年間を取り戻すのは容易ではなく、今年度以降のもっとも重要な課題と考えています。

コロナパンデミックから離れて病院を見ると、診療面、管理運営面で明るいニュースがいくつかあります。

診療面では、昨年4月、皮膚科松倉節子先生に常勤医として着任していただきました。意欲的に診療に取り組んでいただいております。旧丸子町および周辺市町村にとって大きな存在となっています。また、本年5月から、中田弘子先生によってフットケア外来が開設されました。高齢者には足のトラブルを抱えている方が多いのですが、適切な診療科を選択することが難しい領域です。謂わば「足の総合診療

科」であるフットケア外来の開設は当地区にとって朗報と言えます。当面月1日でスタートしますが、順次増やしていただく予定です。

消化器センターには非常に意欲的な若い専門医が着任し、ESD件数などが飛躍的に増えました。高度検診センターとして地域の人々を守る当院の使命を考えると喜んでいる次第です。

さて、当病院は、その「目標」に示しているように、病院スタッフの専門的能力の向上による知的資産、無形資産の蓄積こそ病院の診療能力、管理・運営能力の向上の基礎と考えており、人材の育成に最大限の努力を傾注してきました。

今年3月には当院の経経営分析データを活用した学位論文をまとめ、経済学修士を取得したスタッフが1名誕生し、また新たに医事課長が着任するなど、経営戦略担当グループの成長により、数年前とは比較にならない経営分析データ、経営戦略的な提言が行われています。看護領域やその他中央診療部門でも、専門的資格を取得した職員が増えています。彼らを励まし、継続的に努力するようサポートすることは我々の大きな責任です。

残念ながら診療面でもっと力を入れるべき高齢者医療、特に認知症を専門とする医師の不足、手術件数の伸び悩みなど、目標を達成できていない領域が残されており、病院長として強く責任を感じています。


当院の基本的理念は「地域のしあわせ創り」です。そのためにはできることは何でもするつもりというのが理事長の口癖であり、いまや当院のシンボルの一つとなった「バラ」もその一つです。今後とも市民の皆さんのご意見をいただきながらより良い病院を目指して運営していきたいと願っています。

沿革

- 昭和 34 年 丸山大司、小県郡丸子町に丸山医院開業
- 昭和 40 年 「医療法人丸山会 丸子中央病院」に新築移転
61 床、5つの診療科を設置（第 1 期新築工事）
- 昭和 41 年 救急指定病院の認定を受ける
- 昭和 42 年 85 床に増床（第 2 期新築工事）
- 昭和 44 年 151 床に増床（第 3 期新築工事）
- 昭和 46 年 人工透析を開始
- 昭和 47 年 更生医療機関に指定
特定医療法人に認定
- 昭和 53 年 病床数 267 床へ増床（第 4 期新築工事）
- 昭和 60 年 総合病院の認可を受け「丸子中央総合病院」となる
- 昭和 61 年 330 床に増床
「上田透析クリニック」開設
- 平成 8 年 「そよ風訪問看護ステーション」開設
- 平成 10 年 丸山和敏、第二代病院長に就任
- 平成 15 年 丸山大司理事長が丸山会 会長に就任
丸山和敏が理事長・院長を併任
- 平成 25 年 勝山努、第三代病院長就任
旧カネボウ丸子工場跡地へ新築移転 297 床
「丸子中央病院」に改称
- 平成 27 年 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価 3rdG : Ver.1.0 認定取得
財団法人日本病院会日本人間ドック学会による人間ドック・健診施設機能評価認定取得
- 平成 28 年 地域包括ケア病棟開設
介護療養型医療施設に愛称「ケアあおぞら」と命名
- 平成 29 年 企業主導型保育園「あったかステーション わくわく」開設
- 平成 30 年 D P C 対象病院として包括請求業務を開始
丸子中央病院介護医療院「ケアあおぞら」を開設（許可病床数 200 床）
長野県発達障がい診療地域連携病院として始動
- 平成 31 年 「病児保育センター」・「医療と介護の総合相談ステーション」開設
- 令和 2 年 発熱外来を設置 院内 PCR 検査開始
- 令和 4 年 正面玄関エリアに「ローズガーデン」オープン



丸子中央病院 シンボルマーク



丸子中央病院に携わるひとりひとりが地域の皆さまのニーズに柔軟にお応えしていく姿勢・情熱を、躍動感のある赤色の楕円をベースにしたデザインで表現しています。
地域の発展を医療・福祉から支え、地域と共に成長しつづける思いを楕円の中央上の円でシンボリックに表しています。
人と人が支え合うイメージを丸子中央病院のアルファベット頭文字の「M」に見立てています。

名称 特定医療法人丸山会 丸子中央病院
 開設者 理事長 丸山和敏
 所在地 〒386-0405
 長野県上田市丸中丸子 1 7 7 1 - 1
 電話 0268-42-1111 (代表)
 F A X 0268-42-1112 (代表)
 敷地面積 27,561 m²
 建築延面積 20,297 m²
 建物 地上 9 階建 耐火鉄骨造り

(2023年4月1日現在)



急性期から在宅までの 継続的な医療・介護の提供

法人内で連携を持ち、患者さん・利用者さん
一人一人を継続的に支援しています



丸子中央病院



一般病棟 (99 床)

急な病気になった場合、手術をする場合などにまず入院するのが一般病棟です。病状が最も重い時期、あるいは不安定な時期の治療を行う病棟です。

地域包括ケア病棟 (50 床)

病状が回復に向かっても、状況が入院前と異なる場合は、家に帰る準備が必要です。リハビリテーションを行ったり、社会資源の活用等の調整を行い、安心して退院後の生活に移れるよう支援します。

医療療養病棟 (50 床)

病状が安定しても、長期間にわたる医療処置が必要な方が入院する病棟です。処置などをしながら退院して自宅で過ごすことを目指します。



介護医療院

「ケアあおぞら」(定員:97名)

病状が安定したものの家ででの生活が難しく、長期療養が必要な方に御利用いただく施設です。生活の場としての機能を持ちあわせており、居住性に配慮した施設で状態に応じて自立した日常生活を支援いたします。



そよ風訪問看護ステーション

医師・看護師・リハビリテーションスタッフがチームとなり、病院退院後の在宅療養に必要な看護や介護のお手伝いをいたします。



発達外来

長野県から委託を受け2018年より上小園域の発達障がい診療地域連携病院として始動しました。地域で医療及び療育的支援を受けやすくするため、関係職種との知識・技術の向上なども担っています。医師・看護師・作業療法士・言語聴覚士・公認心理士など多職種でお子さんにとってより良い支援につながるようサポートしています。



ひまわり会

院内ボランティア「ひまわり会」が外来で患者さんをアテンドします。丸山医院開院当初から働いていた OB・OG が所属しており、受診までの間、安心して過ごすことができます。

丸山会関連施設

介護老人保健施設

長野県 御所苑	〒386-0033	長野県上田市御所 666	電話 0268-22-2222
上田市 ケアまるこ	〒386-0404	長野県上田市上丸子 331-13	電話 0268-42-1110
埼玉県 ケア大宮 花の丘	〒331-0045	埼玉県さいたま市西区内野本郷 975-5	電話 048-620-2400
東京都 ケア新小岩	〒124-0023	東京都葛飾区東新小岩 2-1-12	電話 03-5671-6003
ケア東久留米	〒203-0052	東京都東久留米市幸町 3-11-10	電話 042-479-2600

診療所

■ 上田透析クリニック (血液透析モニター 49 台)	〒386-0033	長野県上田市御所 674	電話 0268-27-3006
--------------------------------	-----------	--------------	-----------------

丸子中央病院概要

2022 年度 病床利用率・平均在院日数

	許可病床数	稼働病床数	病床利用率(%)	平均在院日数(日)
一般病床	99	99	86.5	17
地域包括ケア病棟	50	50	90.7	
医療療養病床	50	50	90.8	

介護医療院 定員97名

2022 年度実績

新入院患者数	2,745 名	救急患者数	8,794 名 (うち入院 1,154 名)
延入院患者数	64,362 名 (1 日平均 176.3 名)	救急車搬送数	1,379 名
		紹介患者数	5,054 名
延外来患者数	126,140 名 (1 日平均 345.6 名)	紹介率 (日本病院会 QI プロジェクト)	44.0%
初診患者数	12,055 名	逆紹介数	4,583 名
		逆紹介率 (日本病院会 QI プロジェクト)	43.3%

職員数 574 名 (常勤 465 名、非常勤 109 名 (常勤換算)) (2023 年 5 月現在)

	職種総数	常勤 職員数	非常勤 (常勤換算)
医師	35.0	26	9.04
歯科医師	2	2	0
看護要員 合計	219.7	171	48.7
保健師	7.2	6	1.2
看護師	130	98	32
准看護師	73.6	62	11.6
看護補助者	8.9	5	3.9
薬剤師	14.2	12	2.2
臨床検査技師	16.5	10	6.5
診療放射線技師	10.3	9	1.3
管理栄養士	8	8	0

	職種総数	常勤 職員数	非常勤 (常勤換算)
リハビリ部門 合計	54.4	51	3.4
理学療法士	29.4	29	0.4
作業療法士	15.5	14	1.5
言語聴覚士	7.3	6	1.3
公認心理師	2.2	2	0.2
診療情報管理士	3	3	0
臨床工学技士	15	15	0
医療ソーシャルワーカー	5	5	0
介護支援専門員	5	5	0
介護福祉士・介護職員	79.2	66	13.2
事務部門	70.7	61	9.7
その他職種	35.6	21	14.6
職員総数	573.6	465	108.6

医療安全推進者 18 名 (専任・兼任)

感染管理担当者 5 名 (専任・兼任)

標榜診療科 (2023年5月1日現在)

内科	呼吸器内科	循環器内科	消化器内科
糖尿病内科	腎臓内科	腎臓内科 (人工透析)	神経内科
心療内科	外科	心臓血管外科	整形外科
脳神経外科	形成外科	精神科	小児科
皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科
リハビリテーション科	放射線科	救急科	歯科
歯科口腔外科	麻酔科		

施設基準・承認事項 (2023年5月1日現在)

基本診療料

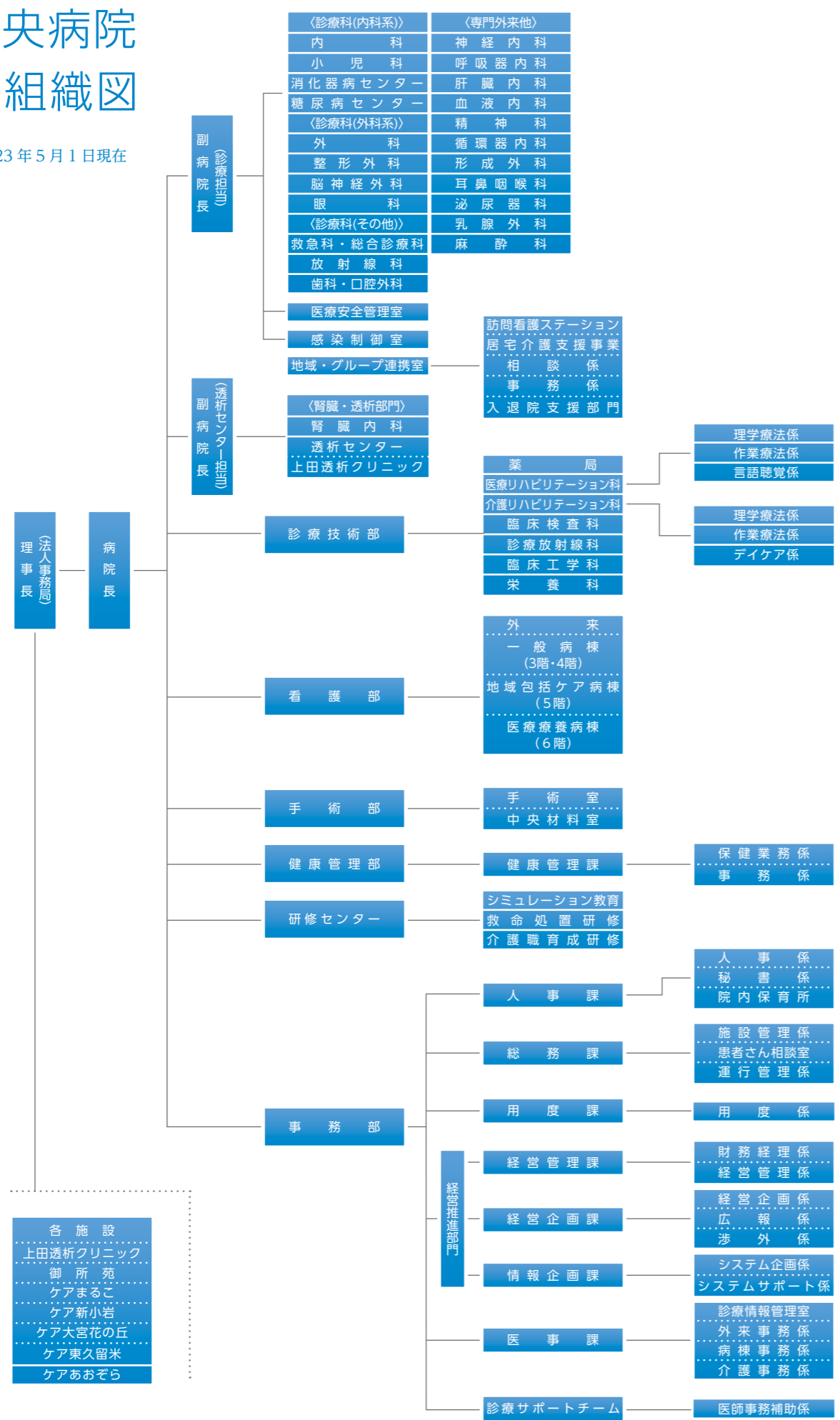
- 機能強化加算
- 初診料 (歯科) の注 1 に掲げる基準
- 歯科外来診療環境体制加算 1
- 一般病棟入院基本料 急性期一般入院料 1
- 療養病棟入院基本料 1
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 診療録管理体制加算 1
- 医師事務作業補助体制加算 1 15 対 1
- 急性期看護補助体制加算 25 対 1
- 夜間 50 対 1 急性期看護補助体制加算
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 療養病棟療養環境加算 1
- 医療安全対策加算 2
- 感染向上加算 1
- 患者サポート体制充実加算
- 後発医薬品使用体制加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 1
- データ提出加算 2
- データ提出加算 4
- 入院支援加算 1
- 認知症ケア加算 2
- せん妄ハイリスク患者ケア加算
- 精神疾患診療体制加算
- 看護職員処遇改善評価料 49

特掲診療料

- 糖尿病合併症管理料
- がん疼痛緩和指導管理料
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 二次性骨折予防継続管理料 1
- 二次性骨折予防継続管理料 2
- 二次性骨折予防継続管理料 3
- 下肢創傷処置管理料
- 院内トリアージ実施料
- 夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に規定する救急搬送看護体制加算 1
- 外来腫瘍化学療法診療料 1
- がん治療連携指導料
- こころの連携指導料 (II)
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 歯科治療時医療管理料
- 別添 1 の「第 14 の 2」の 1 の (1) に規定する在宅療養支援病院
- 在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料
- 検体検査管理加算 (I)
- 検体検査管理加算 (II)
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- 神経学的検査
- コンタクトレンズ検査料 1
- 画像診断管理加算 1
- 画像診断管理加算 2
- CT 撮影及び MRI 撮影
- 冠動脈 CT 撮影加算
- 心臓 MRI 撮影加算
- 無菌製剤処理料
- 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
- 運動器リハビリテーション料 (I)
- 呼吸器リハビリテーション料 (I)
- 歯科口腔リハビリテーション料 2
- エタノールの局所注入 (甲状腺に対するもの)
- エタノールの局所注入 (副甲状腺に対するもの)
- 人工腎臓 慢性維持透析を行った場合 1
- 導入期加算 1
- 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- 口腔粘膜処置
- CAD/CAM 冠
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 胃瘻造設術 (内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
- 輸血管理料 II
- 輸血適正使用加算
- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- レーザー機器加算
- 麻酔管理料 (I)
- クラウン・ブリッジ維持管理料

丸子中央病院 組織図

部署別 2023年5月1日現在



役員

2023年5月1日現在

- 丸山会 理事長 丸山和敏 (まるやま かずとし)
- 常務理事 長崎信之 (ながさき のぶゆき)
- 法人事務局長 田中克典 (たなか かつのり)
- 丸子中央病院 病院長 勝山努 (かつやま つとむ)
- 副病院長 松澤賢治 (まつざわ けんじ)
- 透析担当副病院長 都筑重利 (つづき しげとし)
- 特別顧問 岡元和文 (おかもと かずふみ)
- 顧問 松本あつ子 (まつもと あつこ)

診療部

- 医局 長 平野賢 (ひらの けん)
- 内科系診療部 長 杉尾芳紀 (すぎお よしのり)
- 外科系診療部 長 橋倉泰彦 (はしくら やすひこ)
- 内科部 長 渡邊光久 (わたなべ みつひさ)
- 松澤賢治 (まつざわ けんじ)
- 加藤裕子 (かとう ゆうこ)
- 小山潤 (こやま じゅん)
- 中島恒夫 (なかじま つねお)
- 沖山葉子 (おきやま ようこ)
- 石川守 (いしかわ まもる)
- 樋口雅隆 (ひぐち まさたか)
- 中嶋太郎 (なかじま たろう)
- 鈴木彰 (すずき あきら)
- 小児科部 長 齊間陽子 (さいま ようこ)
- 皮膚科部 長 松倉節子 (まつくら せつこ)
- 循環器内科部 長 平野賢 (ひらの けん)
- 外科部 長 杉尾芳紀 (すぎお よしのり)
- 住友博輝 (すみとも ひろき)
- 救急科・総合診療科部 長 岡元和文 (おかもと かずふみ)
- 佐藤貴久 (さとう たかひさ)
- 麻酔科 (兼務)部 長 岡元和文 (おかもと かずふみ)
- 佐藤貴久 (さとう たかひさ)
- 消化器病センター センター長 松澤賢治 (まつざわ けんじ)
- 糖尿病センター センター長 大房裕和 (おおふさ ひろかず)
- 整形外科部 長 久保田豊 (くぼた ゆたか)
- 平野貴広 (ひらの たかひろ)
- 眼科部 長 野原雅彦 (のほら まさひこ)
- 脳神経外科部 長 塚田利幸 (つかだ としゆき)
- 放射線科部 長 星野博信 (ほしの ひろのぶ)
- 歯科部 長 山田哲男 (やまだ てつお)
- 興水大比古 (こしみず ひろひこ)
- 手術部部 長 岡元和文 (おかもと かずふみ)
- 透析センター センター長 橋倉泰彦 (はしくら やすひこ)

各部門

- 地域・グループ連携室長 高末真知子 (たかすえ まちこ)
- 看護部長 岡部由美 (おかべ ゆみ)
- 医療安全管理室長 小山潤 (こやま じゅん)
- 健康管理部長 橋倉泰彦 (はしくら やすひこ)
- 研修センター長 橋倉泰彦 (はしくら やすひこ)
- 事務部長 田中克典 (たなか かつのり)
- 事務部次長 池内淳子 (いけうち じゅんこ)

つながる地域とのきずな ぬくもりある医療の提供

働く職員の多くがこの丸子地域で育ち、幼いころから当院を受診し、地域と共に歩んできました。病院にお越しいただく患者さんの中にも、職員の家族やご近所さんが多く、会話の中には慣れ親しんだぬくもりが感じとれます。今日も病院の中では、地域のみなさんによる写真・作品展示や、コンサートなどが行われています。私たちの役割は、患者さんはもちろん、その先にあるご家族、そして地域住民にとっても“しあわせ”を感じられる環境を提供することです。医療・介護を通じ「この病院でしかできないこと」を探しています。そのために、住民参加の地域医療づくり、そして何より患者さんの意思を尊重できる人材育成を大切に考えています。

院内施設紹介



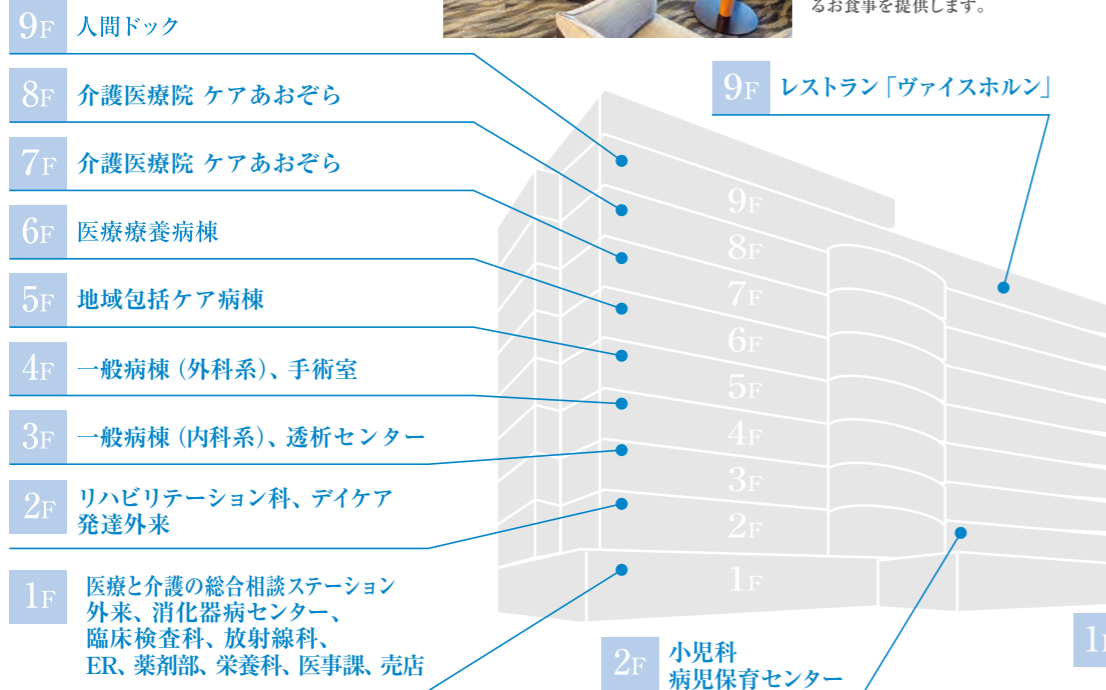
人間ドック

健康的な生活を送っていただくためにお一人、お一人に合わせた丁寧な説明を心がけています。健診後は、空港のゆったりとしたラウンジをイメージした、9階ドック専用ラウンジでフランス料理の山田シェフによるお食事を提供します。



医療と介護の総合相談ステーション

「地域医療連携室」「入退院支援室」「医療福祉相談室」「訪問看護ステーション」「訪問リハビリテーション」「居宅介護支援センター」を1か所に集約し、地域住民の方々や患者さん、利用者さん、ご家族等からの医療・介護に関するご相談を一体的にお受けしています。



透析センター



患者さんに安心・快適な環境で治療を受けて頂けるよう、最新の患者監視装置を備え、一人一人のスペースも充実しています。外来での臨時透析や緊急透析にも対応し、関連施設の上田透析クリニックはもちろん、地域の透析医療機関とも連携しています。



消化器病センター

特殊光観察(NBI)可能な光源システムを導入し、電子内視鏡スコープを用いた上部消化管内視鏡、大腸内視鏡による観察・精査(拡大内視鏡、超音波内視鏡)が可能です。また内視鏡を用いた治療(EMR、ESD、ERCPなど)を行っており、必要に応じてカプセル内視鏡を用いた小腸検査も施行しています。

あったかステーションわくわく



内閣府の企業主導型保育事業の制度を利用した保育園です。職員や、地域のみなさんがご利用いただけます。地域で安心してお父さん、お母さんが働き続けられるように、仕事と子育ての両立を支援します。



シミュレーション教育を中心とした研修体制 ~地域を支える人になる~

当院は「研修センター」を設置するとともに、研修に必要な各種シミュレーターを備えています。

これは、「知っている」と「できる」との間に存在するギャップを埋める教育手法として近年注目されているシミュレーション教育の場を院内外に提供し、地域の医療水準向上をはかるためです。

看護学生、新人看護師だけでなく、再就職者やベテラン職員、医師までがシミュレーション研修に参加し、ともに学びながら「実践力の習得」と「良好なコミュニケーションによるチーム医療」に向けて励んでいます。また導入しているオンラインテキストにより「世界標準」を目指している点は当院の特長と考えています。さらに2014年度からは、新たに介護福祉士向けに介護研修プログラムを開発し、教育機関の支援を受け研修を開始しました。理学療法士、薬剤師などの各職種に対しても「急変対応研修」を実施しています。

これらのシミュレーション研修を「成人教育理論」に基づいて行うために、指導者は米国の指導者研修会を修了しています。



AHA-BLSコース ~地域の救命率を上げるために~

一般市民が心原性心肺機能停止の時点を目撃した傷病者のうち、一般市民が心肺蘇生を実施した傷病者の1か月後社会復帰率は9.7%で、心肺蘇生を実施しなかった場合の3.2%と比較して約3.0倍高くなっています(総務省消防庁 令和4年版 救急救助の現況より)。地域の救命率・社会復帰率を上げるためには、医療従事者と共に地域住民への心肺蘇生法の普及・技術向上が欠かせません。

当院では、平成24年よりAHA(アメリカ心臓協会)の公認インストラクター8名を養成し、AHAの最新ガイドラインに沿ったBLS(一次救命処置)コースを、福岡博多トレーニングセンター監修の下で開催しております。これまで近隣医療機関の医療従事者や一般市民にもコースを開放し、地域の救命率・社会復帰率向上に寄与するべく活動しています。

PUSHコース

丸子中央病院は、大阪ライフサポート協会と日本心臓財団がすすめる「PUSHプロジェクト」に参加しており、現在12名のPUSH認定インストラクターが活動しています。地域の皆さんには、胸骨圧迫+AEDだけの誰でもできる心肺蘇生の研修会を通じて、突然死を防ぎ地域の救命率を上げる活動を地元の小中学校、警察署、一般企業などで開催しています。

感染対策チーム

丸子中央病院感染対策チーム(ICT)は、施設を利用するすべての方を感染症から守ることを目的に活動しています。感染症の対策として、1つは「感染症の発生を予防すること」、もう1つは「感染症が発生した場合の事後対応」が挙げられます。日常的な活動としては、予防を重点的に行っています。例えば、感染対策に必要な情報を収集、その情報を分析し、施設の傾向を把握し、治療や、感染対策の研修などに活用しています。万一、施設内で感染症が発生、拡大した場合には、迅速に事後対応を行い、感染症によるダメージを最小限に留めるようICTが活動しています。COVID-19などの世界規模の大きな流行が発生した場合も同様に、病院を安心して利用できるように、感染対策を実施しています。





駅よりバスをご利用の方

- 北陸新幹線・しなの鉄道線 上田駅お城口バス停、
またはしなの鉄道線 大屋駅バス停より
千曲バス 鹿教湯線 (丸子、鹿教湯方面行き) 乗車
またはJRバス関東 長久保線 (長久保行き) 乗車

※当院正面入口に「中央病院前」バス停があります。
※朝、夜1便ずつ、「中央病院前」に停車しないバスもございますのでご注意ください。

お車をご利用の方

- しなの鉄道 大屋駅から5km (車で約10分)
- 上田菅平ICから浅間サンライン、大屋駅前を通り13km (車で約25分)
- 東部湯の丸ICから県道81号線丸子東部インター線を通り11km (車で約25分)

特定医療法人丸山会



丸子中央病院

〒386-0405 長野県上田市中丸子1771-1

電話 0268-42-1111 (代表) FAX 0268-42-1112

丸子中央病院
ホームページ
<https://maruko-hp.jp>

